

一般質問通告書

令和7年2月27日

高島市議会議長 河越 安実治 様

高島市議会議員 12番 磯部 亜希

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が2以上ある場合は、次のどちらかに○をつけてください。

- ・質問番号1の用紙にだけご記入ください。
- ・質問が一つだけの場合は必然的に1となりますので、記入は不要です。

初問は { 1. 全項目一括質問一括答弁
② 項目ごとに一括質問一括答弁

(質問番号 1) 発言事項	子ども達が地域について考え、意見を出していくことが高島市の未来を拓いていくのではないかと
要旨	(項目だけでなく、質問の趣旨が理解できるように記入してください。) 未来の高島市をデザインしていくためには、行政やまちづくりについて関心をもつ子どもたちを育てていく必要性があると感じています。子どもの時から自分たちの暮らすまちについて考えるきっかけづくりを体制的に整え、子どもたち自身が地域の課題について知り、学び、自分だったらどうするのか、どうしていけば良いのかを考える土壌づくりに本格的に力を入れていくことが、これからの10年、20年後の高島市を作っていく種まきになると考えます。 私はこれまで、子どもの権利に関する条例、子どもたちの意見表明の場づくり、政策への反映等を取り上げてきましたが、さらに議論を深めるため、以下について問います。 1. 現在、高島市において、数々の子育て支援に関わる施策が行われています。その施策は、保育料の完全無償化、高校生までの医療費無償化、こども園等・小学校・

中学校の給食費の無償化、奨学金の一部半額減免、満1歳までのお子さんへの乳児おむつ等支給事業等が挙げられます。市という単位でここまでの施策を行っているのは全国的にもハイレベルだと捉えています。

結婚を機に市外に転出され、出産し、子育て中の女性と話をする機会がありました。「高島市では子育てで様々な支援があり、それを当たり前に思っていました、今、暮らしている自治体ではないものも多く、いかに恵まれていたのかを知りました」と言われました。その一方で、市内の高校に通う高校生の方からは、「子育て支援に力を入れていると聞いていますが、内容を見てみると、親が助かることばかりで、僕たちがしてほしいことはあまり入っていないんです」というまた違った意見もお聞きしました。それをお聞きした時、懸命に行政で取り組まれているとは思いますが、一理あるなと思いました。金銭的に助かる、というのは保護者の方であり、大人の目線で行われていると捉えられているのです。

これは子育ての分野に限らず、他の分野においても、考えているのが大人であるため、どうしても自分の目線で論理を組み立てがちです。高島市に暮らすのは大人だけではありません。10年、20年先にこの地域社会を担っていくであろう子どもや若者の意見も聞いて取り入れていくことは、大変重要なことだと考えます。前段で述べたように、子どものうちから地域の仕組みがどのようなようであり、自分たちはどう思うのかを考えるきっかけ作り、そしてその思いが市政に反映していくことができれば、その経験をした子どもたちがどう育っていくのかはこの高島市に大きな影響を与えるものと考えます。

以上の観点から、子ども・若者たちの意見を表明する場、内容を吟味したうえで市政に反映していく新たな体制づくりの必要性について伺います。

2. 小学校では、社会科見学の一環として、議場の見学がなされているとお聞きしました。私は、その議場の見学にとどまるのではなく、小学校高学年から、中学生、

高校生による議会の傍聴は、行政の仕組みや議会に関心をもつきっかけになると同時に、地域課題について考える機会になると考えます。実際に子どもたちの議会傍聴が行われている自治体もあります。子どもの頃からのこういう体験こそが、将来を担う子どもたちに必要だと思いますが、市としての考えはいかがでしょうか。

3. 子どもたちの意見表明の場や第三者機関の設置を含めた子どもの権利を守るための条例の制定について伺います。子どもの教育や、条例等の体制づくりにおける効果は、常に時間がかかるものだと思知しています。変化を加えて行ったところで、すぐに結果が出るものではありません。しかし、目先のことだけではなく、長い目で地域づくりを行う上で、この条例の存在は大切だと考えています。滋賀県では、滋賀県子ども基本条例案要綱の意見募集が行われその結果が公表され、どのような内容になるかがわかってきたところです。県での条例に即して、市でもよりきめ細やかな対応ができるよう、条例制定が必要と考えますが、どのような方針でしょうか。